

つながる ひろがる おりなす
アートには地域の未来を変える力があります

AMO2024 開催報告

ARTS MEET OKITAMA 2024 もたくさんの創意溢れる作品と出会うことができました。ご出品いただいた皆様、本当にありがとうございました。

出品数 86 点（大賞エントリー 49 点、若手アーティスト奨励賞 22 点）
来場者 2,000 人 来場者の投票総数 885 票

○大 賞

「一日の終わりに」八頭こほり 93 票

○若手アーティスト奨励賞

「知識」石井かおり 147 票

「薪窯のふぐ」神田光彦 72 票

「段雷」川合高弘 60 票

*大賞・若手アーティスト奨励賞受賞の 4 作品は、今年秋の「ミナミハラアートウォーク 2024」(9/21～9/29) に出品予定です。

◇置賜文化フォーラムプレゼンツ 関連事業

昨年の若手アーティスト奨励賞受賞の八頭さんにワークショップしていただきました。

第 1 部「スポンジを使って夜空を描いてみよう！」

第 2 部「塗って、切って、好きな風景を作ろう！」

講師：八頭こほり

参加人数 第 1 部 10 組 15 名 第 2 部 9 組 14 名

AMO2024

AMO2024



AMO 大賞 井上富士子展



公募展



公募展



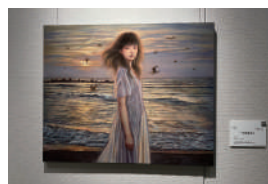
ギャラリーショップ

ARTS MEET OKITAMA だより夏号 VOL.7

2024 年 6 月

よねざわ市民ギャラリーと「ARTS MEET OKITAMA」
の情報をお届けします。

AMO2024 大賞展へ向けて



東北芸術工科大学卒業後、画家を目指し、寒河江市、東京、名古屋、大坂と各地で活躍している八頭こほりさん。「ノスタルジー」や「センチメンタル」を軸にした作品を多く手掛けています。

2020 年以降のコロナ禍の影響を受け、背景の描写にもこだわるようになったと語っています。様々な葛藤や想いを抱く女性を描き続けている八頭さんから、AMO 大賞展へむけてコメントをいただきました。

このたびは AMO 大賞に選んで頂き、ご投票下さった皆様、審査員の先生方、関係者の皆様へ心から御礼申し上げます。私が山形に住んで 10 年ほどが経ちます。山形に来るまでの私は、心が疲れきっていて、それが絵にも表れていたように思います。そんな私の心象を映して描いた絵の少女達の表情は、頑なで悲しげでした。ですが、山形の豊かな自然や美味しい食べ物、人の暖かさに癒され、元気を取り戻すとともに、絵も変化していきました。特にコロナ禍以降、私は少女像とともに、身近な山形の風景や、かつて私が住んでいた土地の風景を描くようになりました。何気ない風景ですが、観た人の心に触れられるような、どこかなつかしく暖かい風景を描きたいと考えています。是非絵の中の少女達と視線を合わせてみてください。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

【八頭こほり Profile】

鳥取県出身、山形県在住のアクリル画家。

東北芸術工科大学 文化財保存修復学科卒業。

2023 年、寒河江市美術館にて個展「何を見ても何かを思い出す」開催。センチメンタルな気持ちや女性像や身近な風景に託して描いている。

予告 AMO2025 スケジュール

受付期間 10 月 16 日（月）～令和 6 年 1 月 15 日（月）

出品票メ切 2 月 12 日（月）

AMO2025 3 月 8 日（金）～18 日（月）

受賞式 3 月 20 日（水・祝）

テーマ部門「^{そら}宙」

昨年の「光」に続き、今年は「宙（そら）」をテーマとした作品を募集します。詳細は、10 月上旬にお知らせいたします。

開催報告 4月20日(土)～5月6日(月・祝)

福王寺一彦

高野山金剛峯寺襖絵第二回奉納記念

草木、蝶と螢 つながるいのちのなかで

昨年に続き高野山金剛峯寺へ奉納される襖絵の新作と、福王寺氏の高校時代の作品から襖絵へとつながる制作の軌跡を紹介しました。

【アンケートより】近くで見ると立体的で草木の下にある光の金色や黄色がとても好きでした。絵の中に頭の中に入り込めそうな雰囲気ではおっと見



ていました。部活動で一度、岩絵具を使った事があるので、自分で描いたものとやはり全然違う、綺麗な青でまだどこかで見に行きたいと思う作品でした。

関連事業

5月1日(木) 美術と音楽の夕べ
福王寺一彦 × 福田直樹

OPEN GALLERY

ナセBA

Yonezawa Citizens Gallery

Uesugi Museum Art Collection



開催中

椿貞雄の墨彩画



オープンギャラリーでは、7月24日まで椿貞雄の墨彩画を展示しています。椿は、岸田劉生の影響から、油絵だけでなく日本画も手がけ、それぞれの技法で「内なる美」を追い求めています。今回は墨彩画の作品から特に植物に関連した作品をご紹介します。

次回予告

高森務と米沢ゆかりの作家たち

7月26日(金)～10月23日(水)

「高森務回顧展」に合わせ、米沢市上杉博物館所蔵の福王寺法林、遠藤桑珠、桜井祐一、黒澤梧郎、後藤克芳の作品を高森務との交流を交え展示します。

<よねざわ市民ギャラリー夏の自主事業>

高森務回顧展

子どもたちとふるさと米沢のために



2024年8月3日(土)～8月22日(木)

こどもと文化、そして郷土のために駆けぬけた106年！

高森務(明治42～平成28)は、小学校教師時代から「子どもたちに夢と希望を与えたい」という思いのもと、昭和27年人形劇団「青空クラブ」を結成しました。その後、「児童センター」の創設や「米沢こども新聞」の発刊、「米沢市児童会館」の創設・運営に深く貢献しました。教職を退いてからは、児童文化の向上と米沢の文化全体の底上げに一層力を尽くし、郷土とその未来を担う子どもたちに、夢と希望を授ける膨大な活動にその生涯を捧げました。人形「雲右エ門」を携えて方々へ向かい、様々な団体を組織するなど、そのエネルギー活動は100歳を超えてなお続きました。

また、若い頃から絵画に親しみ、中央で活躍する芸術家とも深く交流し、戦後の米沢における美術団体の発足にも大きな足跡を残しています。

本展覧会では、高森務が米沢の文化の進展に果たした数多くの活動を、106年の人生と浜田広介をはじめとする様々な出会いを交えて紹介します。

共催 米沢市芸術文化協会

協力 高森家 青空クラブ 火曜会 廣介先生を偲ぶ会 有限会社 富士印刷
米沢児童文化協会 米沢直江會 米沢水彩画会 緑光会

市民ギャラリーについて

当ギャラリーは、市民の皆様の美術作品の発表及び鑑賞、市民文化の交流の場として利用しやすい施設を目指しています。芸術文化活動の拠点として、また、様々な芸術文化に親しめるギャラリーを皆様と共に育んで参ります。

自主事業では、4つのコンセプトを念頭にオープンギャラリーの展示、企画展等を行っています。

- 米沢市上杉博物館と連携した展示
- 米沢市ゆかりの作家の作品展示
- 魅力ある企画展示
- 市民ギャラリーの利用促進や、市民の皆様の芸術文化に寄与する展示



▲ギャラリー HP QR



▲ギャラリー・HP 公式
Twitter QR

ARTS
MEET
OKITAMA
だより夏号 VOL.4
20230628

発行：よねざわ市民ギャラリー (公益財団法人米沢市上杉文化振興財団)

〒992-0045 米沢市中央 1-10-6 TEL 0238-22-6400 FAX 0238-26-0036

問合せ：伝国の杜 米沢市上杉博物館 TEL 0238-26-8001 FAX 0238-26-2660